

気候変動の身近な影響と適応策を考える ～ IPCC 第 38 回総会 in 横浜に向けて～の開催について

気候変動に関するシンポジウム(気候変動の身近な影響と適応策を考える～IPCC 第 38 回総会 in 横浜に向けて～) を下記のとおり開催致します。

■目的

平成 25 年 9 月 27 日に気候変動に関する政府間パネル (IPCC) より第 5 次評価報告書第 1 作業部会報告書 (自然科学的根拠) が公表されました。また、平成 26 年 3 月には日本で初めて横浜で IPCC 第 38 回総会が開催されます。第 38 回総会では、第 5 次評価報告書の第 2 作業部会 (適応等) に関する報告書を取りまとめることとなっております。

本シンポジウムでは、今後発表される IPCC 第 5 次評価報告書等の内容をより理解することができるよう、気候変動による影響と適応についての最新の知見をわかりやすく伝えることを目的とします。

■概要

日時：平成 25 年 10 月 30 日 (水) 13:00～15:30

場所：はまぎんホール ヴィアマーレ

〒220-8611 横浜市西区みなとみらい 3-1-1

<http://www.yokohama-viamare.or.jp/viamare.html>

主催：環境省 共催：横浜市

■プログラム

○挨拶 環境省地球環境局長 関 莊一郎
横浜市長 林 文子

○基調講演

田崎 真也氏 (ソムリエ)

モンチップ・スリラタナ・タブカノン 氏

(タイ学術研究会議 (NRCT) 気候変動研究センターディレクター)

沖 大幹 氏 (東京大学生産技術研究所 教授)

三村 信男 氏 (茨城大学地球変動適応科学研究機関 機関長)

広域水圏環境科学教育研究センター 教授)

○パネルディスカッション

<コーディネーター>

三村 信男 氏

<パネリスト>

モンチップ・スリラタナ・タブカノン 氏

沖 大幹 氏

清水 俊英 氏 (株式会社サカタのタネ広報宣伝部部長)

脇田 朋弥 氏 (フェリス女学院大学 エコキャンパス研究会)

浜野 四郎 氏 (横浜市温暖化対策統括本部長)

※本シンポジウムには、日・英同時通訳が入ります。

<裏面あり>

4. 参加申込みについて

参加費無料となっております。必要事項を記載の上、シンポジウム運営事務局へFAXまたはEメールでお申込みください。

なお、Eメールでのお申込みの際には、表題に「横浜シンポジウム参加申込みについて」と明記し、[1] 氏名（ふりがな）、[2] 所属（必須ではありません）、[3] 住所、[4] 電話番号、[5] メールアドレス又は FAX 番号を記載願います。

申込締切は、平成25年10月23日（金）17時です。

また、御参加希望者多数の場合は、抽選とさせていただき、御参加いただけない場合がございます。予め御了承ください。

■参加申込先：シンポジウム運営事務局（一般財団法人 地球・人間環境フォーラム）

E-mail : climate@gef.or.jp

TEL : 03-5825-9735 FAX : 03-5825-9737

会場案内図

はまぎんホール ヴィアマーレ (1F)



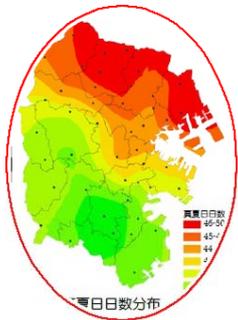
お問い合わせ先

横浜市温暖化対策統括本部調整課企画担当課長 林 総 Tel 045-671-2683

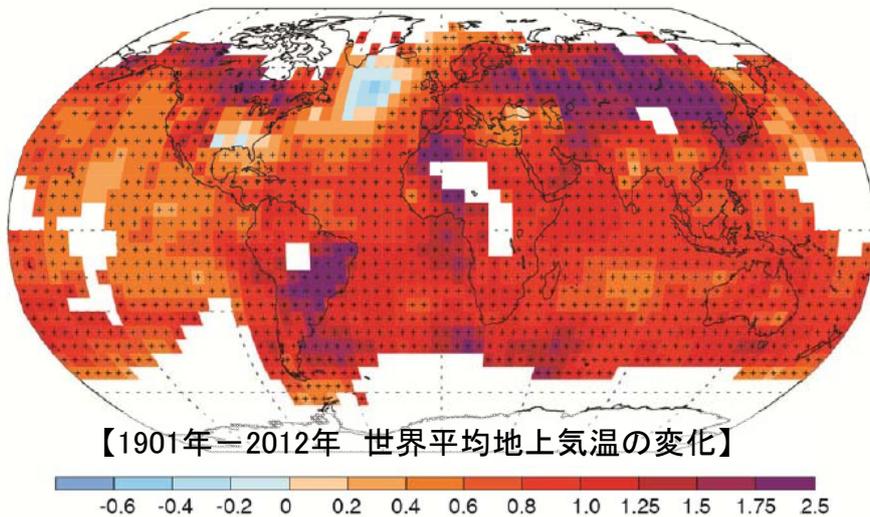
【環境省主催 シンポジウム】

気候変動の 身近な影響と適応策を 考える

～IPCC第38回総会in横浜に向けて～



横浜市の
真夏日数



【1901年－2012年 世界平均地上気温の変化】

-0.6 -0.4 -0.2 0 0.2 0.4 0.6 0.8 1.0 1.25 1.5 1.75 2.5

温度変化(°C) IPCC第5次評価報告書第1作業部会報告書SPM Fig. SPM-1(b)



浸水・豪雨状況



挨拶

環境省（主催） 関 莊一郎 （環境省地球環境局長）

横浜市（共催） 林 文子 （横浜市長）

基調講演

ソムリエ

田崎 真也

タイ学術研究会議
気候変動研究センター
ディレクター

モンチップ・スリラタナ・タブカノン

東京大学
生産技術研究所
教授

沖 大幹

茨城大学
広域水圏環境科学教育研究センター 教授
ICAS 機関長

三村 信男

〈敬称略〉

パネルディスカッション

身近で考え行動する 気候変動問題

● 日時： 10月30日 水 13:00-15:30（12:30開場）

● 会場： はまぎんホール ヴィアマーレ（横浜市西区みなとみらい3-1-1）

● 定員： 300名[参加費無料]（要事前申込み 申込者多数の場合は抽選となります）

※ シンポジウムには、日・英同時通訳が入ります。



『環境省主催 シンポジウム』

気候変動の身近な影響と適応策を考える

～IPCC第38回総会 in 横浜に向けて～

気候変動に関する政府間パネル（IPCC）は、9月末に第1作業部会報告書（自然科学的根拠）を公表しました。また、来年3月に日本で初めて横浜で開催されるIPCC第38回総会では、第2作業部会報告書（影響・適応・脆弱性）を取りまとめることとなっています。*

気候変動による影響と適応についての最新の知見をわかりやすくお伝えし、気候変動による身近な影響と適応策を考えるシンポジウムを開催します。

※ 各国政府による地球温暖化防止政策に科学的基礎を与えるIPCCは、数年おきに評価報告書を発行（第4次評価報告書は2007年に承認）、その作成は3つの作業部会に分かれて行われています。

挨拶

環境省： 関 莊一郎（環境省地球環境局長）
横浜市： 林 文子（横浜市長）

基調講演



田崎 真也 氏

田崎 真也（ソムリエ）
モンチップ・スリラタナ・タブカノン（タイ学術研究会議 気候変動研究センター ディレクター）
沖 大幹（東京大学 生産技術研究所 教授）
三村 信男（茨城大学 地球変動適応科学研究機関(ICAS) 機関長
広域水圏環境科学教育研究センター 教授）（敬称略）

パネルディスカッション

コーディネーター：三村 信男

パネリスト： モンチップ・スリラタナ・タブカノン
沖 大幹
清水 俊英（サカタのタネ広報宣伝部部长）
脇田 朋弥（フェリス学院大学エコキャンパス研究会）
浜野 四郎（横浜市温暖化対策統括部部长）（敬称略）

● 日時： 10月30日 水 13:00-15:30（12:30開場）

● 会場： はまぎんホール ヴィアマーレ

● 定員： 300名 [参加費無料]（要事前申込み）
申込者多数の場合は抽選となります

- シンポジウムへの御参加にはE-mailまたはFAXでの事前申込みが必要になります。
- E-mailでお申込みの際には、表題に「横浜シンポジウム参加申込みについて」と明記し、[1] 氏名（ふりがな）[2] 所属（必須ではありません）[3] 住所 [4] 電話番号 [5] メールアドレス又はFAX番号を記載の上、お申込み下さい。
- FAXよりお申込みの場合は、下記フォームを御利用下さい。
- ※ シンポジウムには、日・英同時通訳が入ります。



はまぎんホール ヴィアマーレ

横浜市西区みなとみらい3-1-1

JR・横浜市営地下鉄線 桜木町駅から徒歩5分
みなとみらい線 みなとみらい駅から徒歩7分

※ 駐車場の用意がございませんので、御来場の際は、公共の交通機関等を御利用ください。

参加申し込み・お問い合わせ

シンポジウム運営事務局

（一般財団法人地球・人間環境フォーラム 担当：瀬戸、天野）

E-mail : climate@gef.or.jp / TEL : 03-5825-9735 / FAX : 03-5825-9737

お名前		ふりがな	
ご所属			
ご住所			
TEL		FAX	
E-mail			